

「鳴く虫観察会」(令和元年9月14日開催)

- ・講師 杉本 武さん
- ・参加者 34人

1 事前説明

野外観察の前に講師から鳴く虫について説明がありました。コオロギ類やキリギリス類が鳴く仕組みは、翅(はね)をこすり合わせて音を出し、コオロギ類の翅(はね)の裏側はヤスリ状になっています。鳴き方には種類があり、メスをくどく時の「誘い鳴き」やオス同士がけんかをする時の「威嚇(いかく)鳴き」など目的により鳴き方が変わります。また、多くの虫には鼓膜(こまく)があり、コオロギ類やキリギリス類には前足に鼓膜があります。鳴く虫にはコオロギとキリギリスの仲間がありますが、全国ではそれぞれ約120種で、静岡県にはコオロギ類が47種、キリギリス類が38種います。コオロギ類は卵で冬を越し、翌年の春に幼虫となり、8月頃に羽化して成虫となります。コオロギ類は顔の形やもようによって種類が見分けられ、ミツカドコオロギは顔に特徴(とくちょう)があり刃物ので切ったように平面的で、左右上下が十文字に張り出しています。

2 野外観察

事前説明後、18時頃から野外観察を始めました。まだ明るさが残っていましたが、耳を澄ますとスズムシ、カネタタキなど色々な虫の鳴き声が聞こえてきました。周りが暗くなり、灯りをつけると、足元にはコオロギ類がたくさん見られ、草むらの中には、カマキリ、ナナフシ、バッタ、キリギリスの仲間やイチモンジセセリ、キアゲハ、ツチイナゴの幼虫なども見られ、木の上からはアオマツムシの鳴き声が聞かれました。

3 ライトトラップ(灯火採集)

本日は観察路の途中で「桶ヶ谷沼自然環境調査」のために行われていたライトトラップ(灯火採集)を見学しました。ライトトラップは夜行性の昆虫が光に集まる習性を利用して採集する方法で、マツムシ、クマコオロギなど多数の種類、頭数の昆虫が集まっていました。

4 まとめ

ビジターセンターへ戻り、本日の観察会で見つけた虫の種類をホワイトボードへ書き出し、確認しました。また、講師が実際にクツワムシの翅(はね)をこすって鳴く音を出しましたが、クツワムシは鳴く虫の中でも特に声が大きく、一晩中眠れないほどの声で鳴くそうです。夜行性の昆虫は光に集まりますが、これは光を好んでいるわけではなく、人間が人工的に作り出した強い光に目がくらみ寄ってくるという説明がありました。

事前説明



事前説明



野外観察風景



野外観察風景



ライトトラップ



ライトトラップ



まとめ



まとめ

